No.143（令和５年３月１日）

おもな内容

ページ
随　想 …… 1
教育講演会 …… 2
研修講座寸描 …… 3～5
出前講座寸描 …… 5～6
令和５年度 講座開設の工夫・
　ＩＣＴ実技研修講座開設 …… 7
令和５年度
　当研修センター開催予定講座 … 8
研究室だより・
　研究協力校の実践 …… 9～10

「二学期終了会　全校雪中鬼ごっこ」

令和四年十二月二十日実施

本校では、毎学期の終わりに、児童生徒会役員が中心となり、全校生徒が楽しめる「終了会」を実施しています。今年度の二学期終了会では、雪深いグラウンドで、鬼ごっこを行いました。本校は山村留学制度を取り入れており、大阪や愛知、沖縄からの留学生たちは、これまで雪に触れる機会が少なく、寒くても、元気に走り回り、楽しんでいました。

（美深町立仁宇布小中学校）

## 随想

# 地域コミュニティーの充実を目指して

上川教育研修センター組合教育委員会
委員　金谷　昭
（東神楽町教育委員会教育長）

私には、子どもの頃を思い出すと、自分のことながら驚きの遊びがあります。おそらく小学校三・四年生の頃だったと思います。

留萌市に住んでいた私は、友達とスキーを担いで、千望台に向かう路線バスに乗ります。終点で降りると山の中に入り、スキーをはいて木々の間の狭い獣道を滑って進みます。しばらく行くと登り坂になります。汗をかきかき必死に頂上を目指します。そこからまた下りに入ると、スイスイと滑り始めます。そんな登りと滑りを二・三回繰り返します。途中、ちょっと開けた所に出ると、そこでは、二～三十メートル級のジャンプ台のような崖を、何人もの子どもたちが飛んでいるのを目にします。

「あの角度は恐ろしい…。よくあんなところを飛び降りるものだ…。」

と感心しながら、母親が持たせてくれたおにぎりを頬張ります。留萌市の東光方面の市街地に出ると、そこから、路線バスに乗り、家を目指します。私たちは、この遊びを「山越え」と言い、年に数回、真冬の日曜日をこうして過ごしたものでした。

今なら…こうした遊びが許されるだろうか。スキーをするなら、まずはスキー場！となるのではと思いますし、よく親や社会全体がこうした遊びを許してくれたものだとつくづく感心します。

さて、とある会議で、次のような話をいただきました。

「昔は、地域がつながり、祖父母からの教育もあった。相互扶助、助け合いの中で私たちは育ってきた。昔あった日本のよい習慣を取り戻したい。」

私のいわゆる「山越え」が、「昔あった日本のよい習慣」だとは言えませんが、よく考えてみると、この遊びを教えてくれたのは、友達のお父さんだったと思います。一人の大人が五・六人の子どもを連れて、こうしたスキー遊びやザリガニ採り、自然探索などをしてくれました。自分の父親は休みを読書で過ごすタイプの人だったので、こうした近所のおじさんの誘いに、いつも胸を弾ませて参加していました。これは、今風に言うと「地域の教育力」「社会教育」だったのではないかと考えます。

「社会教育は地下水のような働きをしている。地平からは見えないが万物を支えている。目立たないし、地味なものだがとても重要」という言葉があります。

今、社会やライフスタルの変化等により、人と人との「つながり」の希薄化が課題となっている中で、地域のコミュニティーを充実させることが私の重要な仕事の一つであると考えています。

「第一学年音楽　六段の調」

令和四年十二月二日の学習に際し、伝統文化体験事業に伴う講師派遣による講師として、旭川三曲協会（松浦　百洋　氏ほか）よりお越しいただき、和楽器に親しむを目標に「箏」を弾く体験活動を行いました。不慣れながらも徐々に箏に取り組む中で和楽器へ親しみを深め、縦符や音階等の理解を深めました。生徒たちは、講師の皆様にご指導を受けながら「さくらさくら」の演奏を目指し、貴重な体験を積むことができました。

（旭川市立東陽中学校）

## センター日誌

11月4日　研修事業拡大会議
12月12日　センター運営協議会
12月13日　センター研究発表会
　　冬季合同所員研
1月10日　センター組合教育委員会会議
1月18日　センター組合議会定例会
2月8日　センターだより第143号発行
3月1日　令和4年度研究紀要第48号発行（予定）
3月31日　令和5年度研修講座開催要項発行（予定）
4月1日　※　毎週火曜日　定例研究室会議

# 上川教育研修センター　教育講演会

要旨

**演題**「深い学びの視点からの授業改善
～資質・能力を育成する学びの文脈～」

**講師** 大妻女子大学家政学部児童学科　教授
（元　文部科学省国立教育政策研究所
学力調査官 兼 教育課程調査官）

樺山敏郎（かばやま　としろう）氏

## ★ 新しい時代の潮流

令和の日本型学校教育、個別最適な学び、協働的な学びなどが昨今のキーワードとなっていますが、私はこれらと主体的・対話的で深い学びとを一体化する考え方を、「学びの文脈を創る」というフレーズでまとめ、ラーニング・マウンテンを提唱しています。協働的な学びは、子どもたちが単独で山に登っていくのではなく、相互に支え合い、高め合いながら、一緒に高みを目指していくことだと考えています。ですから、子どもが自らの学習の状況を把握し、自分の学びを自分で評価して（学習評価）、「これでは先に行けない、なんで僕できないの？」という状況をメタ認知しながら、主体的・対話的に学びを調整していくことが大切です。

指導の個別化と、学習の個性化を図るためには、例えばパフォーマンス課題として、学んだことを誰かに論証してみせる。あるいは、それを活用して、新たな問題を解いて、誰かにレクチャーするなどして、探究することが考えられます。まずは指導の個別化をし、さらにあなたが好きな課題を好きな通りやっていいよというように（自由進度学習）、コントロールを重視する学習の個性化に一層意を用いることが期待されます。しかし、教科の学びはある一定の知識・技能をみんなが理解できないと、先に進めないこともありますので、このバランスが大事です。「子どもが問いたい問いを問う」と「問うべき問いを問わせる、考えさせる」ことは違います。教えるプロとして、「問うべき問い」を問わせなければいけません。個別最適が児童生徒への迎合主義、放任主義になることを私は危惧しています。

## ★ 資質・能力を育成する授業づくり ～個別最適・協働的な学びの文脈を創る

学びの文脈を創るためのラーニング・マウンテンについて説明します。子どもたちには、今日学んだことが、次にどう繋がっていくのかという点と線が見えているでしょうか。私たちは指導案で単元の学習計画表をつくります。それを子どもたちに配るようなイメージ、見える化することで、子どもたちは構造的に自分の立ち位置を理解できます。何ができるようになるのかという最後の姿を描くということです。先生が「この上のゴールはどうする？」と言った時に、子どもたちが「もっと先生、難しい問題解きたい、もっとこういうようなものにチャレンジしたい。」と思うように、デザインしていこうということです。子どもたちは溢れるような思いをもっています。その溢れる思いを子どもたちとコーディネートしながら、もっと高い山、もっと険しい山、もっと面白い山、もっと人が喜ぶようなことをやろうと考えると、学びの文脈はいくらでも広がり、いくらでも高くなります。

何からこのヒントを得たかというと、実は特別支援学級の授業だったんです。一年生と二年生と六年生のクラスで、生活単元の買い物ごっこをしようという学習でした。この時、一年生は小銭担当でした。二年生はお札の担当でした。六年生は何の担当だと思います。六年生は割引担当なんです。なるほどと思いませんか。まさしく、個別最適や個別支援計画が成り立つ。こういう発想かと思ったんですよ。これをラーニングマウンテンにリライトしたのです。

## ★ 学習評価の基本的な方向 ～主体的に学習に取り組む態度

「学びに向かう力、人間性等」の中でも「感性、思いやりなど」は教科等の観点別学習状況評価や評定には反映せず、個人内評価をすることになっています。そこで、「主体的に学習に取り組む態度（以下、態度）」を切り分けて　三観点の一つとしています。ただし、「態度」の評価は観点別の評価としながらも、他の二観点と一体化して評価することが基本となります。そうすると、努力をさほどしていなくても、「知識・技能」や「思考・判断・表現」がAであれば、態度もBかAになりそうです。しかし、反抗的な態度で、友達と協力する姿も全くない状況と判断するのであれば、それはCをつけざるを得ないかと思います。そうではなく、表層的には主体的な様子は見て取れなくても、自分なりのペースで、他に迷惑をかけずに取り組んでいれば、Cはつけ難いということです。

一方、一生懸命に取り組んではいるが、「知識・技能」や「思考・判断・表現」がCの場合は、やはり「態度」にAはつけられません。なぜなら、「態度」の評価として、粘り強さと調整という視点があります。生徒自身がどうしてできないのか、どうすれば多面的・多角的に検討できるかなどをメタ認知できないと調整は働きません。つまり、漢字テストでずっと0点の子が一生懸命漢字を百字書いてきても、「態度」はAにはなりません。調整をしていないからです。ただ、その生徒の頑張りは認めてあげたいので、良い点は特記事項に書いてあげましょう。

# 研修講座寸描

## 受講者の感想から

### 9　道徳科指導　7/28(木)・9/30(金)

・授業をする上で、教材研究の仕方やねらいの立て方、評価の仕方について知ることができました。中でも、教材分析シートの例がすごくためになったので、道徳推進教師として学校の中で活用していきたいです。

・ねらいによって進め方が違うため、その意図を考えて意図的、計画的に授業を進めていく必要があることが分かりました。この二回の講義を通して学んだことを今後の道徳の指導に活かしていきたいと思います。

＝講　師＝
水上　丈実（北海道教育大学教職大学院　教授）
北村　貴志（愛宕小　教諭）
今村　恭子（北星中　教諭）

### 12　算数・数学科指導　8/3(水)・9/7(水)

・谷地元先生の貴重なお話を聞くことができ、大変勉強になりました。国から新しい言葉がどんどんおりてくるけれども、大事な本質的な部分を見失ってはいけないなと強く感じました。これまでの指導をやめて新しいことをしなくてはならないという訳ではなく、これまでも大事にしてきたことを今一度見つめ直し、授業の質を向上・改善していくことが大事だと再認識することができました。

・小学校と中学校で、関連のある学習内容の授業を参観させていただき、いかに既習内容を把握することが重要か、授業内容の中の何に時間を使うかなどを考える必要性を感じました。

＝講　師＝
谷地元直樹（北海道教育大学旭川校　教授）
金川　一代（近文小　教諭）
大沼亜紀子（東明中　教諭）

### 13　外国語(英語)指導　8/4(木)・10/5(水)

・単語学習などにも思考・判断・表現を伸ばす指導を組み込めることが意外で参考になりました。今まで「この活動は知識・技能だ」と決めつけていたものでも、工夫次第で改善していけると知って実践していきたいと思いました。

・英語を話させる機会は授業の中で行うことが本当に大切なんだと気付かされました。それ以外にも、授業中の評価の方法など参考になることばかりの機会になりました。本当にありがとうございました。

＝講　師＝
笠原　究（北海道教育大学旭川校　教授）
布施　朋子（愛宕東小　主幹教諭）
鳥居千佳子（啓北中　教諭）

### 14　社会科指導　8/5(金)・10/13(木)

・授業の見通しや組み立て方がすごく参考になりました。また、評価の仕方についても学ぶことができ、大変有意義な時間となりました。

・単元を貫く問い、見通し、振り返り（生徒の変容）を意識した単元構成が必要であることなどを再確認しました。また、良い授業の土台には日頃の細やかな学級経営があることを、実感できる研修になりました。ありがとうございました。

＝講　師＝
坂井　誠亮（北海道教育大学旭川校　教授）
岡　義章（神居東小　教諭）
仲倉　昇吾（神居中　教諭）

## 15　理科指導　8/16(火)・9/29(木)

**講師**
三木　勝仁（旭川第3小校長）
千葉　桃子（豊岡小　教諭）
北原　康弘（広陵中　教諭）

・身の回りの事象を科学的に見るおもしろさ、また、それらを子どもたちにどう提示するかが大変参考になりました。午後からの交流では、他の先生方の実践や悩みなどを共有できました。今後の指導に活かしていきたいと思います。

・理科の見方・考え方を働かせることについて、実践を交えての講話、大変勉強になりました。自身の既成概念が大きく覆るくらいの学びもありました。生徒に付けたい力を明確におさえることの重要性を再確認しましたので、二学期以降、学んだことを生かして授業に取り組んでいきたいと思いました。

## 20　体育科指導（実技）　9/15(木)

**講師**
成瀬　隆宏（神楽岡小　校長）
藤原　紘治（旭川小　教諭）

・子供たちが主体的に取り組み、思考力・判断力・表現力等を高めるための手立てや授業構成がとても勉強になりました。また、オクリンクを用いた振り返りなど、実際の授業に取り入れたい工夫もたくさん教えていただきました。実践的な講義では、持ち帰ってすぐに取り入れたい工夫や、運動の仕方、指示の出し方について教えていただきました。今回、学んだ事を活かすことができるよう、日々精進していきます。ありがとうございました。

## 21　学校経営Ⅱ　9/27(火)

**講師**
泉　大吾（上川教育局支援課長）
石前　聖香（日章小　校長）
佐藤　美鶴（東町小　校長）
千葉　雅樹（広陵中　校長）
蟹谷　正宏（愛別中　校長）

・課題への対応について、表面的なものにのみ視点を当てて対応するのではなく、その背景に目を向け最善の対応を行う必要があること。また、活力ある学校運営を進めるために、管理職を含めた教職員が笑顔で業務を行うことができる環境づくり雰囲気づくりを進めることの重要性を再確認することができました。

・保護者に寄り添うこと、多様性を認めること、教頭としての心構え、他校の取組など教頭として必要なことを学ぶことができました。

## 23　技術・家庭科指導（実技）　1/6(金)

**講師**
相馬　宏顕（旭農高　教諭）
國井　愛（旭農高　教諭）

・初めて見る施設や体験ばかりで、とても楽しい実技研となりました。今後、このような機会（技家研とのタイアップ）がありがたいと思います。

・乳牛や養豚など、教科書の知識だけで通り越してきた内容を体験したことで、授業での取り上げ方が広がりました。培養につても、中学校でできることなどを教えていただき参考になりました。

## 24　書に親しもう　1/5（木）

・久しぶりに筆を持ち、書を体験することができました。字が上手ではないので緊張していたのですが、古い書体をまねたり、顔彩でデザインをしたり、とても楽しく、あっという間に時間が過ぎてしまいました。手本そっくりに上手に書くことだけではなく、自分で考えたことを表現する楽しさを味わい、とても勉強になりました。子どもにもぜひ体験させてあげたいと思っています。本日はありがとうございました。

＝講　師＝
小玉　利佳（知新小　教諭）

## 25　絵に親しもう　1/5（木）

・普段、絵を描くことに苦手意識をもっていたので、今回のパステルで絵を描くのは、本当に楽しく取り組めました。貴重な機会をありがとうございました。
・美術やパステル画というと、お堅いイメージがあったので緊張して来ました。一からの知識を丁寧に教えていただき、楽しく制作をしてほめていただき、作品づくりへの敷居が下がり、もっとやってみたいなと思いました。ありがとうございました。

＝講　師＝
成田　慎司（明星中　教諭）

# 出前講座寸描

## 北門中　今日的な教育課題　8/18（木）

**【講師：久保田竜平（上川教育研修センター研究員）】**
ゴールイメージをもって単元計画を行うことで、学習活動や評価の場面を適切に設定することができると分かりました。実際の指導計画に沿って、一人の生徒が成長する姿が見られ、感動しました。また、振り返りシートなどで生徒自身がゴールイメージをもつことで、自己調整を図ることができるのだと改めてわかりました。
（旭川市立北門中学校　荒木　健地）

## 近文第１小　ＩＣＴの活用　8/24（水）

**【講師：石本　周司（末広北小　教諭）】**
「ＩＣＴスキルを身に付けたい。」と思いつつも「難しい。」「専門的なことは分からない。」と逃げ腰になっていました。今回、石本先生の実用的で分かりやすい講義のおかげで、「できる。」「やってみたい。」と思えました。早速実践しています。
（旭川市立近文第１小学校　小林　幸子）

## 永山小　ＩＣＴの活用　9/14（水）

**【講師：石本　周司（末広北小　教諭）】**
ＩＣＴを活用した導入の工夫や意見交流の方法を紹介していただき、授業に取り入れたいと思いました。また、日頃感じていた課題にもご指導いただき、今後も前向きにＩＣＴについて学びたいと思いました。ありがとうございました。
（旭川市立永山小学校　谷口　愛）

## 美瑛東小　今日的な教育課題　9/22（木）

**【講師：石塚　大輔（上川教育研修センター研究員）】**
「個別最適な学びと協働的な学び」の目的と授業改革の視点を分かりやすく教えていただきました。指導の個別化と学習の個性化について、具体的なイメージを共有することができ、大変勉強になりました。御指導ありがとうございました。
（美瑛町立美瑛東小学校　竹川　純子）

## 旭川第１小　ＩＣＴの活用　9/30（金）

**【講師：伊藤　健治（永山中　教諭）】**

今回は、ミートの使い方全般について詳しく教えていただきました。また、クラスルームを使った、子どもとコミュニケーションを図る方法も、実践例を通して紹介していただきました。それぞれ、今後の指導に生かしたいと思います。

（旭川市立旭川第1小学校　古矢　宏和）

## 東町小　特別支援教育　9/30（金）

**【講師：宮越けんじ（旭川市教育委員会学務課）】**

特別支援教育全般の話だけでなく、不登校対応について心理的背景を知ることや、子どもが安心感、存在感を感じ理想像をもてているかという視点で子どもたちを理解していくという実のあるお話で、学ぶことのとても多い研修でした。

（旭川市立東町小学校　富田　暁美）

## 朱鞠内小　特別支援教育　10/21（金）

**【講師：脇坂　文貴（東光小　教諭）】**

通常学級の中で特別な支援を必要とする児童に対し、具体的な指導や有効な教具を教えていただきました。また、児童の特性に応じた支援と、個性を認め合う学級づくりの大切さを改めて学びました。ご指導ありがとうございました。

（幌加内町立朱鞠内小学校　櫻井　基）

## 永山中　道徳科指導　10/27（木）

**【講師：石川　桂子（当麻小　教諭）】**

講義の中で、道徳科の授業づくりの視点や押さえておくべきポイントを示していただき、普段の授業実践に生かせる大変多くの示唆をいただきました。また、実践例を通して紹介いただいた指導法やグループでの意見交流の仕方等は、今後の授業改善に生かしていきたいと思います。ご指導ありがとうございました。

（旭川市立永山中学校　柴田　晃宏）

## 旭川中・旭川小　特別支援教育　11/ 9（水）

**【講師：目良　久美（美瑛町教育委員会管理課参事）】**

「目の前の子どもが就職するときをイメージする」という視点は、教員としても、保護者としても、心に響きました。また、改めて「メタ認知」の大切さを実感しました。一人ひとりの経験や困り感の違いを理解・分析し、周りからの働きかけで、子どもの育ちが変化することを常に意識して、日々の実践に努めたいと思います。

（旭川市立旭川中学校　山田　浩輝）

特別な支援を要する子たちの困り感がよく分かりました。また、幼小中と連携し、地域全体で子どもたちの情報を共有することで、継続的な支援を実現していくことが大切だと教えていただきました。ご教授、ありがとうございました。

（旭川市立旭川小学校　佐藤　裕行）

## 緑が丘小　ＩＣＴの活用　11/25（金）

**【講師：石本　周司（末広北小　教諭）】**

ＩＣＴの活用方法について、様々なことを学ぶことができました。今までタブレットを使ったクラスルームやスライド、ジャムボードを用いた授業方法を考えたことはありましたが、オクリンクを使って子ども達の意見を共有する方法には様々なやり方があることがよく分かりました。これから、意見を共有する方法としてオクリンクを有効活用したいと感じました。非常に実践的な講義をしていただきありがとうございました。

（旭川市立緑が丘小学校　小林　知晃）

## 美瑛小　道徳科指導　12/ 1（木）

**【講師：山本　浩貴（近文小　教頭）】**

道徳を学ぶ目的やねらいなど、「考えていたつもり」がたくさんあることに気づかされました。技術的なことと理論的なこと両面から教えていただき、これから道徳を学び直す多くの視点を得ることができました。御指導ありがとうございました。

（美瑛町立美瑛小学校　渡邊　拓真）

# 令和５年度　講座開設の工夫

（１）教職生活全般を通じた教職員等の資質能力の総合的な向上を目指す講座運営をする。
（２）教育経営研修では，教職生活の各段階で求められる専門性の基盤となる資質能力の充実を目指す講座を開設する。
（３）教育指導研修のうち，「学級経営と教育相談」講座では，発達障害や校則の見直し等が新たに盛り込まれた生徒指導提要改訂版の理解を深めることを重視する。
（４）教育課題研修では，これまでの「学校力向上」講座から「令和の日本型学校教育」に講座名を変更するとともに，「学校・家庭・地域の連携」「教育講演会」「センター研究発表会」の講座で今日的教育課題に対応する。また，これまでの「ＩＣＴ活用」講座から「ＩＣＴと情報モラル」に講座名を変更し，理論研修と授業研究を行う。
（５）教科等指導研修では，小中間の連携を図るため，各校種合同で理論研修を行うとともに，それぞれの授業研究を行う。
（６）教科実技研修では，免許外教科担任のニーズに応えるため，管内研究団体と連携した講座を開設するとともに，授業研究及び受講者の指導実技向上を重視する。
（７）ＩＣＴ実技研修では，教職員のニーズに応えるため，「表計算」「タブレットＰＣ」「プログラミング」についての講座を開設する。また，全講座で複数講師による少人数指導で対応するとともに，受講しやすくなるように全講座を半日日程で開設する。
（８）北海道立教育研究所と連携した講座を開設する。
（９）期限付教員の指導力向上のため，各講座への積極的参加を勧める。
（10）講座開設情報は，開催要項に加え，センターだより，Ｗｅｂサイト，電子メールによる講座案内等により広く提供していく。
（11）講座運営に関する各種資料，関係図書の利便性を図れる資料室の充実に努める。
（12）コロナの感染拡大状況に応じた日程の弾力的運用に努めるとともに，感染予防を一層徹底する。
（13）上川管内で開催予定の各教科等の全道・全国規模の研究大会との連携に努める。

## 令和５年度ＩＣＴ実技研修講座の開設について

GIGA スクール構想の推進により，１人１台端末と高速大容量の通信ネットワークなど教育環境の整備が進められました。各学校においては，整備されたタブレットに慣れるところから始まり，様々な使い方を試行錯誤する中で，教師と子どもたちが一緒になって活用を進めていることと思います。また，先に出された中教審答申では，ＩＣＴは「個別最適な学びと，協働的な学びを実現するために必要不可欠なもの」として位置づけられ，教員の「ＩＣＴ活用指導力」が求められています。

当センターのＩＣＴ実技研修では，授業改善や校務の効率化をテーマにした講座を用意しております。ぜひ御活用ください。

### 開設講座について

【表計算に関する講座】
Ａ　表計算入門（初級者向け）　○エクセルの基本的な使い方や表計算の概念
Ｂ　校務のための表計算（中級者向け）　○校務で活用できるエクセルのテクニックや関数
Ｃ　校務のための表計算／クラウド活用（中級者向け）
　○校務で活用できるクラウドサービスと表計算の応用

【プログラミング教育に関する講座】
Ｄ　授業のためのプログラミング入門
　○小学校プログラミング教育の理論研修
　○プログラミングソフト（Scratch）や Micro:bit を用いた簡単なプログラム
　○将来の子どもたちを取り巻く情報化社会の理解（e スポーツを通して）　など

【タブレット PC に関する講座】
Ｅ　タブレット PC 入門（初心者向け）　○タブレット PC や基本アプリの使い方について
Ｆ　授業でのタブレット PC 活用　○授業におけるＩＣＴ機器の効果的・効率的な活用
Ｇ　校務でのタブレット PC 活用　○校務におけるＩＣＴ機器の効果的・効率的な活用

# 令和５年度　上川教育研修センター開催予定講座

| 番号 | | 講　座　名 | 期日 | 研　修　内　容 | 授業 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | | 学校経営Ⅰ | ６／６ | 新しい時代を創造する学校経営の在り方 | |
| 2 | | 読書活動 | ６／８ | 児童生徒に本を読む喜びを感じさせる指導の在り方 | 中 |
| 3 | | 特別支援教育 | ①６/15<br>②７/13 | 障がいのある児童生徒の生きる力を育む特別支援教育と校内支援体制の在り方 | 小・中 |
| 4 | | 学級経営と教育相談 | ６/20 | 望ましい人間関係づくりと集団指導・個別指導の在り方 | |
| 5 | | 幼保小連携教育 | ７/25 | 小学校への滑らかな接続を目指す幼小連携教育の在り方 | |
| 6 | | 道徳科指導 | ①７/27<br>②８/31 | 児童生徒の道徳性を高める道徳科指導の在り方 | 小・中 |
| 7 | | 国語科指導 | ①７/28<br>②９/７ | 言葉による見方・考え方を働かせ，適切に表現したり，読み取ったりする力を育てる国語科指導と評価の在り方 | 小・中 |
| 8 | | 理科指導 | ①７/31<br>②９/11 | 理科の見方・考え方を働かせ，問題解決に向けて多面的に考える力を育てる理科指導と評価の在り方 | 小・中 |
| 9 | | 学校事務実務 | ８／２ | 学校事務における今日的課題 | |
| 10 | | 算数・数学科指導 | ①８／３<br>②９/27 | 数学的な見方・考え方を働かせ，統合的・発展的に算数・数学の問題解決に向かう学習指導と評価の在り方 | 小・中 |
| 11 | | 外国語（英語）指導 | ①８／４<br>②10/６ | コミュニケーションを図る資質・能力を育てる外国語（英語）指導と評価の在り方 | 小・中 |
| 12 | | 社会科指導 | ①８／７<br>②10/19 | 社会的事象の見方・考え方を働かせ，多角的に考えて議論する力を育てる社会科指導と評価の在り方 | 小・中 |
| 13 | | 令和の日本型学校教育 | ８／８ | 「令和の日本型学校教育」の実現を目指し，子どもたちの多様な学びとともに「新たな教師の学びの姿」への転換 | |
| 14 | | 学校・家庭・地域の連携 | ８/29 | 子どもたちの生きる力を育むための学校・家庭・地域の連携 | |
| 15 | | ＩＣＴと情報モラル | ９／５ | 情報モラルを身に付けさせ，ＩＣＴを適切に使用させるための指導と評価の在り方 | 中 |
| 16 | | 学校保健 | ９/12 | 児童生徒の心身の健康を育む学校保健の充実 | |
| 17 | | 特別活動 | ９/21 | 多様性を認め，互いに成長し合う関係を築く力を高める特別活動 | 小 |
| 18 | | 学校経営Ⅱ | ９/26 | スクールリーダーとしての教頭の在り方 | |
| 19 | | 書写指導（実技） | 10/５ | 書写における基礎的・基本的な実技指導を明確にし，課題の解決を目指す指導と評価の在り方 | 小 |
| 20 | | 音楽科指導（実技） | 10/13 | 音楽のよさをわかち合い，確かな力を育む音楽教育 | 小 |
| 21 | | センター研究発表会 | 12/12 | 「求められる資質・能力を育む学習指導の在り方」に関する第１９次研究２か年計画の２年次の研究を発表～センター研究員の実践～ | |
| 22 | | 書に親しもう | １／５ | 毛筆で心を伝える作品制作（小品） | |
| 23 | | 絵に親しもう | １／５ | 絵画で心を伝える作品制作（小品） | |
| 24 | | 教育講演会 | １/11 | 講師：田村　学（國學院大學教授）・演題未定 | |
| ＩＣＴ実技研修講座 | A | 表計算入門 | 6/15，7/24 | エクセルの基本的な使い方や表計算の概念について（初級者向け） | |
| | B | 校務のための表計算 | 7/24，10/6 | ＩＦ関数やＶＬＯＯＫＵＰ関数など，実際の校務で使うテクニックや応用（中級者向け） | |
| | C | 校務のための表計算／クラウド活用 | 6/28，12/4 | Forms と表計算アプリの活用について | |
| | D | 授業のためのプログラミング入門 | 7/27，11/1 | 小学校プログラミング教育の基本的な解説およびプログラミングの実習 | |
| | E | タブレットＰＣ入門 | 6/7，9/7 | タブレットＰＣの基本的な使い方について | |
| | F | 授業でのタブレットＰＣ活用 | 7/31，1/5 | タブレットＰＣを授業で効果的・効率的に活用する方法について | |
| | G | 校務でのタブレットＰＣ活用 | 6/22，7/31 | タブレットＰＣを校務で効率的・効果的に活用する方法について | |
| | | 出前講座 | 随時 | 管内各校（教育機関）からの要請に応じ実施する | |

**～詳細日程は，４月にお届けする「研修講座開催要項」で御確認ください。～**

# 研究室だより　今、研究室では

## 第十九次研究　一年次

### 研究主題「求められる資質・能力を育む学習指導の在り方」

### ～指導と評価の一体化を目指す学習評価～

**上川教育研修センターでは，理論研究と実践検証を行った結果，1年次は，次のような成果と課題を明らかにすることができました。**

## 成　果

①各教科等における資質・能力及び単元で取り上げる内容を整理・確認し，単元の目標を適切に設定することができた。
②主に「形成的な評価」の重要性をより高め，教師の授業改善及び児童生徒の学習改善に生かすことができた。
③児童生徒に個別最適な学び，協働的な学びを行わせる場面を設定する等，授業実践として具現化することができた。

## 課　題

①「単元の評価規準を設定する場合の具体性について，各教科等の特性や，育成する資質・能力に関連させながら，より信頼性・妥当性のある内容を，一層吟味する必要がある。
②単元の評価計画を基に，一単位時間の評価方法や評価場面等について，児童生徒への手立てを考慮して設定する必要がある。
③個別最適な学びにおける教師視点の「個に応じた指導」の「指導の個別化」及び「学習の個性化」について，単元の指導計画や評価計画と関連させながらより明確に示し，その効果等について発信する必要がある。また，個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実について一層，授業実践等への具体化を図っていきたい。

**詳細は，3月発刊の研究紀要第48号を御覧ください。**

# 協力校の実践

## ～単元の目標の共有、単元構成の工夫と振り返りの充実、ICTを活用した個々への手立て等により、確実な資質・能力の育成を目指す授業～

旭川市立高台小学校　第五学年　国語科
授業者　藤矢颯太

### 一　単元の指導計画・評価計画を充実させる視点

本単元を計画するにあたって、まず重点とする資質・能力を明確にした上で目標を設定し、それを児童と共有した。さらに、単元構成を「①見通す」、「②捉える、深める」、「③まとめる、広げる」の三つに分け、それぞれの段階で意図的な振り返りを取り入れた。このような計画により、児童は単元を通して「何ができれば良いのか」が明確になる。また、振り返りを通して自らの学習状況を把握することができると考えた。教師は振り返り等を通してそのような児童の姿を的確に把握することができ、指導改善に結び付けられると考えた。

### 二　個別最適な学びと協働的な学びの視点

前述の「①見通す」の段階では、「物語の主人公が一番影響を受けたものは何かをプレゼンしよう」という言語活動を設定し、単元のゴールイメージをもたせた。「②捉える、深める」の段階では、主人公の気持ちの変化に着目させていった。その際、ワークシートやグーグルジャムボードを活用しながら、児童一人一人が学びを蓄積することで、教師は個々のつまずきを把握し、手立てを講じた。「③まとめる、広げる」の段階では、単元のゴールに向けて、児童一人一人が主人公が一番影響を受けたものを考え、プレゼン資料の作成を行った。その際、共有フォルダに蓄積した資料を活用させたり、プレゼン資料をグーグルスライドを用いて作成し、表現の幅を広げたりするなど、個々の学びが成立するように環境を整えた。

### 三　本実践の成果と課題

成果として、児童が単元のゴールに向けて、目的をもって物語の内容を読み取ったり、プレゼンの作成に向けて意欲的に学習したりする姿が見られた。課題として、協働的な学びへの必要感が生まれず、児童同士での学びの深まりや改善を図ることが難しかった。

# 協力校の実践

## ～「資質・能力を育むために重視すべき学習過程」のうち、「検証計画の立案」と「考察・推論」の場面に重きを置いた授業～

旭川市立広陵中学校　第一学年　理科
授業者　宍戸広太

### 一　単元の指導計画・評価計画を充実させる視点

本単元では、「検証計画を立案する場面」の力の育成を目指した前半部分と、「考察・推論する場面」の力の育成を目指した後半部分に分けることで、特に、「思考力、判断力、表現力等」の育成を目指す指導計画を立てた。また、単元の前半部分では、三回繰り返す学習過程の中の「実験計画の立案」の場面において、後半部分では、二回繰り返す学習過程の中の「考察・推論」の場面において、主に生徒のワークシートを見取ることで形成的な評価を行い、生徒の学習改善や教師の指導改善を図った。

### 二　個別最適な学び・協働的な学び

前時までに、ＩＣＴを活用した手立てを図りながら（指導の個別化）、考察を基に個人で新たな課題を設定させた。本時においては、前時に設定した課題と似た考えをもつ生徒同士で班を作り、班で協力して一つの仮説を考えさせた。その後、「検証計画を立案する場面」において、まずは個人で検証計画を考えさせてから、班でチェックシートを基に良い点や改善点を確認させ、さらにもう一度個人に立ち返って自分の計画を見直させた。最後には、改めて班でより良い検証計画を立案させた。生徒一人一人が自分の考えをしっかりともった上で、班員と協力して学習することで、全員が学びを深め、深まりを実感し、「またやりたい」と思える協働的な学びが実現されると考えた。

### 三　本実践の成果と課題

本時において、交流の視点を明確にしたり、生徒に目的をはっきり伝えたりすることで、生徒の交流を活発化することができた。一方で、指導の個別化が不十分だったため、「他者の意見を見て、安心するための交流」となってしまった生徒が一定数存在した。

## 利用上のお願い

会場利用に当たっては，右記の時間内での使用を守っていただくようお願いいたします。
また，当日の混雑状況によっては，当研修センターの駐車場に駐車できない場合があります。予め御承知おきください。

### 貸室使用料〔一般〕

（教職員等，「承認団体」が研修等で利用する場合は，下記金額の半額）

| 室　名 | 午前（9～12時） | 午後（13～17時） | 夜間（18～21時） |
|---|---|---|---|
| 講　　堂 | 2,750円 | 3,080円 | 4,400円 |
| 講堂Ａ・Ｂ | 1,380円 | 1,540円 | 2,200円 |
| 研修室／会議室 | 1,100円 | 1,320円 | 1,870円 |
| 和　　室 | 550円 | 660円 | 880円 |

### 冷暖房料（冷房料金７月１日～８月３１日，暖房料金１０月１日～５月３１日）

| 室　名 | 午前（9～12時） | 午後（13～17時） | 夜間（18～21時） |
|---|---|---|---|
| 講　　堂 | 1,100円 | 1,320円 | 1,650円 |
| 講堂Ａ・Ｂ | 550円 | 660円 | 830円 |
| 研修室／会議室 | 550円 | 660円 | 880円 |
| 和　　室 | 330円 | 330円 | 330円 |

＊冬季は暖房料，夏季は冷房料が加算されます（冷房料は講堂と第1研修室のみ）

| 宿　泊　料 | 2,750円〔暖房料１部屋〕440円<br>＊研修講座受講者，「承認団体」等が行う研修に伴う宿泊者，小中学生は1,320円 |
|---|---|

発行日　令和五年三月一日
発　行　上川教育研修センター
〒〇七〇－〇〇二六
旭川市六条通四丁目
電話（〇一六六）二四－二五〇一
責任者　伊東義晃
印刷所　東信印刷株式会社

※この用紙は再生紙（古紙70％）を使用しています。